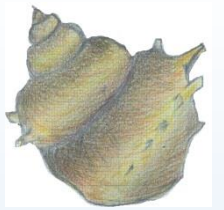


五十嵐浜に生息する貝類

展示期間 2015.12～2018.1



五十嵐浜に生息する貝類



五十嵐浜で採取した貝殻の中で、主に岩礁などに固着して生活している貝類の殻を展示しています。では、岩礁の見当たらない五十嵐浜において、かれらはいったいどこからやってくるのでしょうか。かれらは自然の岩礁だけではなく、人工の防波堤や消波ブロック、テトラポッドなどにも生活しています。



ハマヒルガオの咲く海岸



五十嵐浜...砂浜が広がり、磯は見当たらない

固着生活を営む二枚貝類

イガイやフネガイの仲間は、潮間帯の岩礁などに固着して生活しています。かれらは足糸というものを出し、岩などにくっつけることで体を固定しています。また、その状態で海水を殻内に取り込んで、プランクトンなどの餌をろ過して食べながら生活しています。



ムラサキインコの密集



固着するカサガイ

固着生活を営む巻貝類

多くの巻貝は岩礁に生息しています。五十嵐浜で見られるカサガイやガンガラ仲間は潮間帯で多く見られます。イガイなどと同じようにろ過摂食するものもありますが、カサガイなどは岩礁の表面にいる藻類などを歯で削り取って食べます。

大まかな生息環境ごとに
標本のラベルを色分けしています

岩礁などに固着

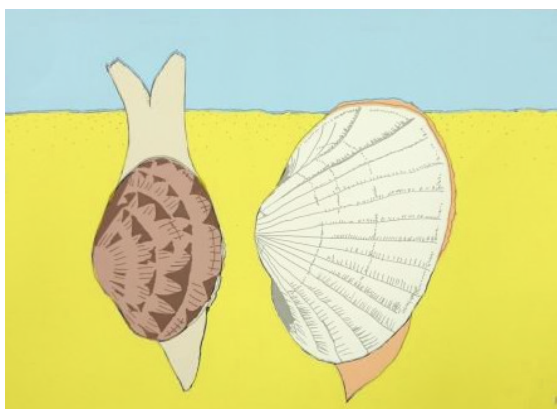


五十嵐浜に生息する貝類

貝類は日本に生息するものだけで約8000種類あり、その大きさや形は多種多様です。五十嵐浜周辺にも多様な生息環境と生活様式を持った貝類が生息しており、それらの殻がたくさん浜に打ち上げられます。

ここでは五十嵐浜で採取した貝殻の中で、主に浜辺や海底に潜り生活している貝類の殻を展示しています。

砂浜に住む貝の生活

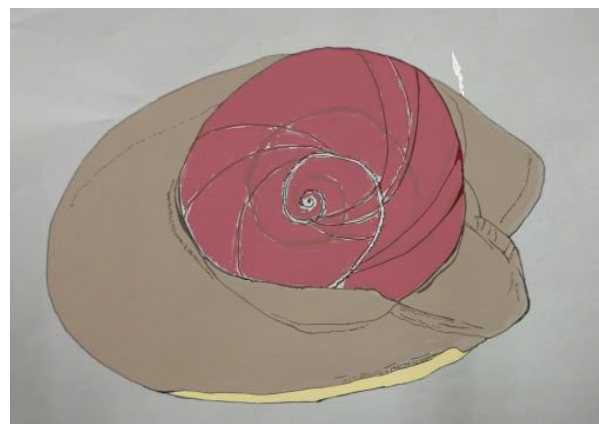


砂の中でのアサリ(左)とサルボウ(右)の様子

二枚貝類

アサリやサルボウは、砂浜に生息しています。餌を探しまわるのではなく、水中のプランクトンをえらでろ過し栄養源としています。

五十嵐浜には新川などの河口近くの汽水域(海水と淡水が混ざっているところ)に生息するヤマトシジミの殻も打ち上げられます。



殻の外に体を広げたツメタガイの様子

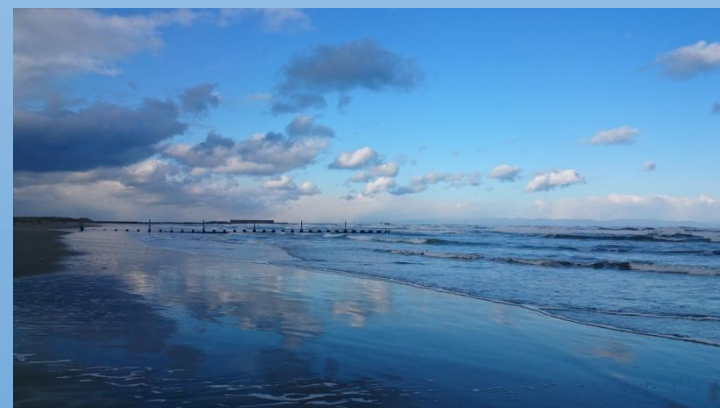
巻貝類

多くの巻貝は岩礁に生息していますが、ツメタガイやキサゴは砂浜にいます。

ツメタガイは殻の外に体を伸ばし、砂の中での生活に適した体形をつくっています。



五十嵐浜では様々な種類の貝殻が拾えます。ぜひ探してみてくださいね！



大まかな生息環境ごとに標本のラベルを色分けしています

- 内湾の泥底
- 外洋の砂泥底
- 河口・汽水域

サイエンス ミュージアム

in 新潟大学理学部

入場 参加
無料

いからし浜の貝のおしゃべり

五十嵐浜に行ったことはありますか？

私たちのすぐ近くにある五十嵐浜にはどんな貝たちが住んでいて、また打ち上げられてくるのかな。

そもそも貝っていったいどんな生き物なの？何を食べてどんなふう成長するの？貝にはどんな秘密がかくされているんだろう？

みんなが不思議に思っていることにお答えします。

新潟大学のお兄さんお姉さんがおもしろい貝のお話をしてくれます。

サイエンスミュージアムに行ってみよう！

12/20(日) 22(火) 24(木) 11:00-15:00

夏休みの研究に向けて

サイエンスミュージアムでは、自然科学の研究に取り組む子供たちを応援しています。冬休み春休み夏休みや10月の新潟大学WeeKには、皆さんが来やすいように特別開館日を設定しています。

ぜひ、研究に関するヒントを探しに来てくださいね。



© Can Stock Photo

年末・年始のお休み：2015/12/25-2016/1/4



海岸に行くときは、必ず、おうちの人と行きましょう。海には楽しいことだけでなく、危険もたくさんあります。

